

通し番号	中学校区	No.	大項目	小項目	分類	未回答	質問内容	回答
63	大須賀中学校区	1	検討の進め方	情報共有			痛みを伴う再配置。地区の痛み、行政の痛みは何か。具体的にリスト化できればリスト化し、対応を考えるべき。	統合や複合化を進めていくと、地域がますます寂れてしまうのではないかという質問もありました。施設自体は延床面積を減らしていきますので、減ったり少し遠くなったりするかもしれませんが、地域ごとに施設を集約して地域の拠点とすることで、今よりも地域に賑わいや交流を生み出し、地域のまちづくりの核とすることを目指していきたいと思っております。少し施設が遠くなるということにつきましては、先程申し上げましたようなスクールバスでの対応等、住民の足の確保という点を今後検討していきたいと思っております。
64	大須賀中学校区	2	再配置の方向性	立地			少子高齢化が急速に進んでいる。高齢者の利用出来る範囲も十分考えた配置をしてほしい。公民館、図書館などについて。	※ 色々な手段や地域拠点の機能については、ご相談させていただきたいと思っております。
65	大須賀中学校区	3	再配置の方向性	その他			マイナス面の補完、サービス維持のため、地区に期待していることは何か。	今日も区長会の皆様を通じて説明会の開催をお願いしたわけですが、市の方針について今日お話を聞いていただきまして、皆様から忌憚のないご意見をいただきたいと思います。それを基に掛川市では公共施設の再配置計画を策定していきたいと思っております。 先程申し上げましたように、市ホームページ等にもご意見を寄せていただけたところがございます。あるいは、それぞれの地域を通じてでも結構でございますので、ご意見をいただければと思います。
66	大須賀中学校区	4	再配置の方向性	少子高齢・人口減少			将来の人口増加については、どのように考えているのか。学校をなくすより子供達を増やしてほしい。そのために頑張っていたきたい。	掛川市第二次総合計画では2040年に人口12万人に回復させようという計画を立てております。そのために、子育て環境の整備や人口増加策等もろもろ推進していこうということを進めております。これにつきましては、そのために頑張っていたきたいということでもありますので、お答えについては人口が増えるように、子供達が増えるような政策を進めていきたいと考えております。
67	大須賀中学校区	5	再配置の方向性	少子高齢・人口減少			少子高齢化について、具体的対策は？	
68	大須賀中学校区	6	再配置の方向性	縮充			資料3で大須賀支所はⅠ期10年の中で複合化を検討と示されています。すでに大須賀支所は農協、交流センターや南部ふくしあが複合化されており、南館も3つのまちづくり協議会が活用しています。計画案では子育て支援と保健医療、福祉施設欄を見ると、上記施設に加えて、Ⅲ期（2039～2048年）において複合化する児童館、老人センターも計画の中に入っています。また、30年、40年、50年と遠い先までの計画は現実的でないと思います。「複合化」の言葉の概念＝コンセプトを聞かせてください。	公共施設の再配置には財政的な理由がありますが、それだけではないと考えています。少子高齢化の進展や社会経済状況の変化により、既存の公共施設では対応し切れていない市民ニーズが今後増加することも予想されます。 そのため再配置については、それらの新しい市民ニーズに対応した新たな公共施設サービスを構築する機会であると考えています。基本的には耐用年数が到来した時に施設の複合化等を進めていく計画としています。また、個々の複合化については、地区ごとの事情を考慮しつつ各地域の皆様と協議しながら慎重に検討していきたいと考えております。
69	大須賀中学校区	7	再配置の方向性	個別施設	大須賀		大須賀支所、中央公民館、図書館の複合化のイメージを持ってない。もっと具体的に説明してほしい。	こちらについては、一つの施設として、一つの敷地として施設の管理をしていくやり方と、これを全部一つの建物にするやり方がございますので、これにつきましても、これからご協議をさせていただきながら、どういう形になるか考えていければと考えております。

70	大須賀中学校区	8	再配置の方向性	縮充		「複合化」、「統合」とは具体的にはどういうことか。統合、複合化した施設を新しく造るのか、縮小して1つの施設に入れるのか。	<p>複合化と言いますと、違う種類の施設を一つにするということです。</p> <p>統合というのは、例えば小学校ですと、二つの小学校を一つにすることを統合で使い分けをさせていただいております。これにつきましては、一体で一つの建物にする場合と、別の建物でも1ヶ所に集まっていれば、それを一つということで管理する場合もございます。</p> <p>また、統合や複合化施設を造る場合は、両方のパターンが考えられます。実際に実施する場合に、先程も申しましたとおり関係の皆様と協議をしながら、どういう施設のあり方が良いのかということを考えていければと思っております。</p>
71	大須賀中学校区	9	再配置の方向性	その他		今、国でも県でも「公共施設再配置」の方針のもと、進められています。静岡県においては当地域に大いに関心のある横須賀と池新田高校との統合問題もその1つです。この問題がどうなるかはわかりませんが、地域への県アクションが見えません。市はこの計画に当たって、県にとっての姿勢と同じでは地域市民は納得できません。そのためには、どのように市民に寄り添っていくのですか。	<p>まずは県のアクションについては、新聞をご覧になった方はご存知かもしれませんが、伊豆の伊東高校が、そちらの再編の作業をしているということで、横須賀高校と池新田高校の再編の作業につきましては、今後、検討されていくということです。当然、県の教育委員会の方からも説明会等が今後あると思いますが、ただ直ぐではないようにも聞いております。県の方である程度、再編計画を決めた中で、また皆様へご説明があるのでないかなと思います。</p> <p>市の対応ですが、横須賀高校は地域に非常に根ざした高校と認識をしております。それから、高校はそれぞれ定員があります。横須賀高校は一時期は低かったのですが、今は定員を超えているという状況であります。これは、やはり地域の産業の担い手や人材となっておりますので、皆様生徒さんに期待しているということを知っているところであります。市の方では、この問題が起こったのは一昨年だと思いますが、直ぐに市長を先頭に県の教育委員会の方に存続の要望を事ある事としてきました。それから、PTAを中心に横須賀高校を守る会も結成していただきました。社外活動もしていただき県教育の方に存続の要望をメーカーサイドから、関係者からも非常に積極的に行っているという状況でございます。これからも市の方では、横須賀高校を守る会の活動を積極的に支援していきたいと思っております。近々、守る会の皆様とお話をさせていただきながら、存続要望の活動等のやり方の話し合いをしていきたいと考えているところであります。</p>
72	大須賀中学校区	10	説明会	運営		今日の中で質問が多かった場合、この席上で回答をいただくことは時間の都合上難しいと思われます。この会議の席上で回答をすべてしていただきたいのですが、質問書に対して回答がなかった場合、後日、4つのまち協事務局にその質問と回答を届けるような配慮はできないか。	<p>後日、ご質問と回答はこちらの方で取りまとめまして、4つのまちづくり協議会の事務局の方へお届けをしたいと考えておりますのでご理解いただきたいと思います。</p>

73	大須賀中学校区	11	再配置の方向性	小中学校の再編	地域との関係	<p>小学校の統合を考えているのか。特に小学校は地域との結びつきが強く、児童の通学を考えると単純に統合するのは乱暴である。</p>	<p>小学校の統合を考えているかということですが、先程申し上げましたように令和7年度までに小学校22校のうち13校、単級学級になるということで、教育委員会としては危機的な状況だと思っております。教員の不足もそうですけれども、そうやって考えていった時に、将来の子供達をどう育むか、今検討・研究を進めているわけです。少なくとも、今の教育環境下では非常に厳しいだろうということで、統合ありきよりも小中一貫教育ができる学校施設づくりを教育委員会としては考えております。ですから、単純に小学校と小学校がくっついてというだけでなく、実は、すでに一昨年から原野谷中学校区の前野谷学園、北部にある学校ですが、原野谷中学校、原田小学校、原谷小学校の3つの学校があります。そこと、城東学園は城東中学校、土方小学校、中小学校、佐東小学校の3小学校と1中学校の城東学園がございますが、それぞれ3年間の小中一貫教育に関する研究指定をしております。先週の金曜日に原野谷学園について原野谷中学校で発表があって、今週の金曜日に城東中学校でこの小中一貫教育のことについての研究発表がございます。地域の方々にも多数、参加いただければなと思っているわけですが、保護者から地域の区長さん方、または学校長さん、色々な方々に入ってきていただいて地域でその検討委員会、これからの学校施設のあり方を検討会を立ち上げて1年少しですけれども研究をしました。城東中学校区の地域検討会では、小中一体型施設、一体型の学校もしくは近いところに学校を造るというのが望ましいじゃないかというご意見が出されました。それと原野谷学園については、もう完全に小中一体型施設が望ましいということでご意見をいただいております。</p> <p>どちらも学校施設だけで考えておりますけれども、その中に先程から申し上げているような複合化というものも合わせて検討していくことになろうかと思えます。そういうふうに地域ごとに多少意見が異なっておりますので、当然この大須賀地区についてもまたご意見を伺う中で、どういった施設が良いのかということも参考にしていきたいと思っております。ですから小学校統合ありきではなくて、小中一貫教育を推進する中で統合していくという学校があること、それが小学校同士だけじゃなくて中学校とも一緒になるということもあるということで進んでおります。</p>
74	大須賀中学校区	12	再配置の方向性	小中学校の再編	再編の枠組み	<p>大淵小も10年のうちに統合、複合化となっているが、地域の重要な施設であり、経費だけでなくさないようにしてほしい。少ない人数だが良い教育環境で、よい子が育っていると思うが…。学校は残し、空いた部屋を地域の公共施設の複合化は良いと思う。</p>	<p>現状については、ご存知の方がほとんどだと思いますが、大須賀中学校区の小中学校の児童数ですが、大淵小は182人、普通学級が6クラスで1学年に1クラスしかございません。プラスして特別支援学級で発達障害等の子供さんが通うクラスが2学級ございます。横須賀小学校ですが、現在390人、普通学級が14学級あります。プラスして特別支援学級が3学級ございます。それから大須賀中学校になりますが、現在283人、9つの学級がございます。プラスして特別支援学級が2学級ございます。横須賀小学校、大淵小学校、大須賀中学校の子供の数が全てで855人、普通学級が29学級ございます。これが子供の人数の推計でございます。0歳児が小学校上がった頃に令和7年度になりますが、その時横須賀小学校が265人になりまして、390人から265人になります。それから大淵小学校が180人から126人になります。大須賀中学校が283人から264人。この令和7年度、横須賀小学校、大淵小学校、大須賀中学校の児童生徒の数を合計して655人。学級数でいうと23学級となります。今現在855人の29学級のところが令和7年度になりますと、約200人減りまして655人。学級数が6学級減りまして、23学級といった状況になります。子供の数が減るというのは大須賀中学校区だけでなく、全国的に少子高齢化と言われているところであります。掛川市全体の中でも子供の数が減っております。多少、中学校区によって変動の数は異なるわけですけれども、なぜ複合化といった時に今の国や県で求められる、掛川市でもそうです子供達に求められる力というのが、今、社会の変化がものすごく激しいです。スピードがどんどん変わって、10年・20年先がどうなるのか、なかなか予測が付かないような時代になっていきます。今後、今の子供達が大人になるにつれて、社会の変化はまた激しく短期間で色々と変わってくるだろうと思えます。そういう時代に向けて、子供達がしっかり逞しく「生きる力」と言っておりますけれども、そういう力をやっぱ学校教育だけではなくて、先程から施設の複合化の話が出ておりますけれども、地域の皆様にもお力をお借りしながら、子供達を育てていくような環境を整えていくことが必要だということで全国的にそういう流れの中で動いているところがあります。先程の亀山市と松坂市は一つの事例として、ご紹介させていただきましても、そういった流れの中で述べているところなのですが、少人数ですとより良い環境でということで、例えば、子供を見るのに30人40人を1人で見るとより5人10人を見た方が、目が行き届きやすいと思えます。これは、数の理屈で言えば、当然そうなのですが、逆に子供の場合ですと、やはりある程度、切磋琢磨していく環境がないとなかなか生きる力というのは外へ出ていった時に、逞しく、色々な価値観を持った人達と共に生きる中で、ハローワークですけれども、そういった環境に入っていた時に環境に適應できないということもございます。ですから、ある程度小学校の頃から、そういった環境に置くということが望ましいということで、今現在、色々な分析をしておりますけれども、掛川市の場合は、全国学力学習状況調査の中で、はっきり学力の面で小規模校と中規模校以上で差ができてきております。先程、言っている生きる力という面においても、人数が多いところの方が、色々な価値観を持った子供が含まれているというところでは、そのより良い環境というのは、やはり考え方を考えていかなければいけないということで、今現在、掛川市は小中一貫教育を進めようということで学園化構想を検討しているわけですが、次の新たなステージに向けて新たな学園づくりを検討しております。新たな学園づくりというのは、この中学校区そのものの枠組みがどんなものかについて検討しているわけですが、そういう中で、学校施設の再編をしていくということで、今市内に大淵小の例がございましたけれども、単級学級、いわゆる1学年に1学級、皆様の時代はもう1学年に3学級以上あったと思えます。すごいところでは6学級、7学級あったと思えます。そういう中で今、単級以上のクラスにしているということ学園化を進めておりますけれども、状況としては、小中一貫教育を進める中で、なるべく学級数も増やす、また縦の繋がり、中学校と小学校の繋がりがりだけでなく横の繋がりがりも、数が増えることで多層的・多面的な価値観を持って教育が進められるように考えております。</p>

75	大須賀中学校区	13	再配置の方向性	各地域の平等性	偏在		<p>廃止地域が南部（大須賀、大東）に集中しているように思えるが、差別ではないのか。</p>	<p>延床面積の割合を見ますと、大東、大須賀区域が多くあると思います。今、中学校区別での説明会を開催しておりますが、公共施設全体の住民1人当たりの面積というのが、市全体で3.11㎡ということになります。やはり、大浜中学校区や大須賀中学校区は、その平均よりもだいぶ多くございます。大浜中学校区が5.17㎡、大須賀中学校区が4.01㎡ということでございまして、やはり、合併前に町が調整を進める上で、必要な施設を整備したという結果だと思っております。町が住民の福祉という点で、施設を何年かけて整備していただいたということだと思っております。</p>
76	大須賀中学校区	14	再配置の方向性	各地域の平等性	偏在		<p>統合、廃止施設は大須賀地区に多く生じることではないでしょうか。</p>	<p>そういった施設や建物も少し老朽化してきているということ、今回問題提供させていただいたとご理解いただければと思っております。確かに全体として、これを見ますと少しそういった傾向が感じられるかもしれませんが、これについては、別のご質問にも出ておりますが、機能のことをきちんと整理をして、どういうものが地域にとって必要な機能なのかということ、今後皆様と検討させていただきたいと思っております。</p>
77	大須賀中学校区	15	再配置の方向性	小中学校の再編	地域との関係		<p>小学校区は昭和の合併の旧村であることが多く（例－大淵）、生活圏として自治的な機能を持ち、福祉などの基礎単位でもある。何より小学校を失った地域に子育て世帯が戻ることはなく、衰退が予想される。せっかく自然豊かな教育環境を求めてIターンやUターンした家族が増えてきた小学校区のコミュニティが簡単に壊れてしまう心配があります。この計画で今後、「一体校」が進めば広域的になり、スクールバスを利用する状況が次々と生まれ、これまで以上の予算が拡大する恐れがある。歩いて通える学校こそ、子供を真ん中にした、地域の中で育つ、開かれた学校づくりではないか。「学府一体化構想」を見直すべきではないか。地域を壊すような計画を進めるのですか。</p>	<p>再編です。どこで区切って学校を変えていくかというのは、今検討しているところでありますが教育委員会だけで決定するわけではありません。今現在、教育委員会と消防局の関係部署、財政も入ったり土木建築関係も入ったり、そういったところも入って市だけで結論を出すのではなく、やはり有識者、大学の関係者にも入っていただいて、色々一緒になって検討をして、子供達にとってより良い教育環境、施設を検討しているところです。小学校6年、中学校3年合わせて9年間は義務教育になりますけれども、その9年間は義務教育ですから見直しに入っているところです。掛川市が進めている学園化から、その中の小中一貫教育についても小学校6年、中学校3年といった枠組みにとられることなく色々な研究を進めております。</p> <p>当然、一体校で広域的になるということは、スクールバスは子供達だけじゃなくて、大人や高齢者の方も利用できるようなバスにしていきたいという思いもございまして。そういうことも含めて、色々と拡大する中で地域の皆様と学校が一緒になって子供達を育てていくことを基本にしていきたいと思っております。</p> <p>この中学校学園化構想は全部そのまま見直すのではなく、その地域に合った特徴を生かせるようなところで見直しを行いながら進めていきたいと思っております。一番心配されるのが、子供が育って都会へ出て、戻ってこないのではないかといったご心配をされていると思います。今のままでいったら余計に戻ってこない可能性が高いです。ですから掛川市に限らず、他の自治体もそうですが、世界で活躍する子供ももちろん必要ですし、そういった方々がまた地域に戻っても活躍できるような子供を育てていきたいと教育委員会としては考えております。</p>
78	大須賀中学校区	16	再配置の方向性	小中学校の再編			<p>小中一貫教育の方針等が決定されていないが、この方針と建物との関係が連携できるような対策を考えてほしい。</p>	<p>市のホームページを見ていただければと思いますが、掛川市が小中一貫教育方針を出してございます。平成28年から検討して平成29年に方針を出してございますので、その方針に基づいて、色々な小中一貫教育の取り組みを進めているというところです。</p> <p>当然、何か不具合があれば、そのところはまた検討、見直しを図りながら進めているところでございます。ご質問いただいた方には、そのように紙面でも出してありますし、ネットでも見れるようにしてありますので、またご覧いただければと思います。よろしく申し上げます。</p>

79	大須賀中学校区	17	再配置の方向性	小中学校の再編		<p>学級の人数が少ないと生きる力が弱いというのは暴言。自分も単学級であるし、必ずしもそうではない。経費統合ありきの（前提の）考え方である。逆からの発想もしてほしい。山の方の少ないところはどうなるのか。遠くへ行かなければならない。小学校で少なくとも中学校、高校で次第に多くなり、その中でも育つのではないか。</p>	<p>子供の特徴を考えていけば、100%生きる力が育まれないということはないかもしれませんが。しかし、トータルとして13校見ておりますけれども、全体を見るとそういう傾向がございます。これは明らかに事実として出ているところです。この中で先程申し上げなかったのですが、経費だけのことではなくて、要は学校があっても現実として、教える人いわゆる教員が不足しております。掛川市内ですけれども、小中学校の教員が4割、地元で6割が他市から来ていただいて定数を埋めております。ほとんど袋井、磐田、島田、藤枝、遠いところだと静岡、浜松からも来ております。それでクラスの担任に入ってもらい、100%教員の数を埋めているという現実がございます。</p> <p>今、皆様は新聞等で教員の働き方改革の話はご存知かと思いますが、現状としては厳しい状況です。この前の神戸で教員のいじめ問題がありました。本当にあってはならない事件が起きたように、学校の教員の組織上の問題、数の問題、そういったものが全国的にあると思います。掛川市はその中でもかなり数的には危機的な状況です。ですから今のまま、学校数といった時に、配置できないようなところもございます。それを何とかして、例えば70歳過ぎの退職した方に教壇に立ってもらっているという事実もございます。そうやって、先生方の数を何とか足りるようにして対応しているところです。今も若い先生方を県の方も採用して増やしてはいるのですが、なかなか若い先生というのは、いきなり質が高い、能力が高いという教員だけではございませんので、育成をすると何年もかかたりいたします。そういった中で、子供達が本当にどこの学校に行っても、しっかりとした教育を受けられるようにするのが、我々教育委員会や行政の務めだと思っておりますので、先程言ったような生きる力がしっかり備わる、色々な面から子供達の成長を考えて育んでいきたいと考えます。</p>
80	大須賀中学校区	18	再配置の方向性	縮充		<p>この計画案を見ると平成の大合併を想起します。結果として住民負担は重く、サービスは低くだったではありませんか。市は「施設の量は『縮減』、統廃合や複合化なので、サービスの質的向上での『充実』」ということですが、結果は質の低下につながるではありませんか？大須賀や大東地区はこの1期10年間で多くの施設が統合、複合化され「真っ赤」です。公共施設の統合化は地域の衰退、生業が立ち行かなくなることを心配します。</p>	<p>地域が衰退しないように、ご相談させていただきたいと思っております。施設については、面積が減ったり、少し距離が離れたり、色々なことが出てくるかもしれませんが、地域ごとに施設を集約し、これまでの施設では成し得なかった多目的な利用とか複合化を地域の皆様の賑わいという視点で整備していきたいと考えております。</p>
81	大須賀中学校区	19	再配置の方向性	防災		<p>ここ数年の台風、大雨による災害も考慮したものになっているか。場合により、思い切った設置場所の変更も必要なのでは。</p>	<p>今回、施設の統廃合も含めた建替時には、このご指摘をいただいたご意見はごもっともだと思いますので、そういった視点も考慮しながらご相談をさせていただきたいと思っております。よろしくお願いたします。</p>

82	大須賀中学校区	20	検討の進め方	計画策定期			策定が来年の10月予定となっています。あまりにも拙速すぎるのではありませんか。今後50年間の公共施設の再配置案を決めるんですよ。なぜ来年の10月なのですか。あまりにも短期間すぎるのでは。来年の10月という根拠、理由を聞かせてください。	今回の再配置の計画については、あくまで各施設の再配置検討の方向性や時期を示すものであります。申し上げておりますが、事業化をしていく段階につきましても、もちろん関係の皆様、それから地域の皆様と協議をさせていただきながら推進をしていくということになります。それから再配置方針を基に、地域の皆様や議会の方とも、あるいは行財政改革審議会のご意見・ご議論を踏まえ再配置計画を策定していきたいと考えております。ですので、先程も申し上げましたが、この再配置の計画については、社会経済情勢の変化や市民ニーズの変化等によりまして、10年ごとに見直しを進めていくという予定でございますので、ご理解をいただきたいと思っております。
83	大須賀中学校区	21	再配置の方向性	個別施設	大須賀		複合化を検討しているが、建物はそのままにしてゾーンのイメージでいいのか。	現在の施設の状況によっても異なってくると思いますが、おっしゃるように既存の建物をそのまま使用できるケースの他、複合化施設として再整備すべきケースもあろうかと思っております。個別具体的な事業ごとに地域の皆様と協議しながら検討していきたいと思っております。
84	大須賀中学校区	22	再配置の方向性	個別施設	産業施設		サンサンファームととうもんの里は設置時点でも趣旨目的が異なるが、統合に際して、それらも考えられているのか。	質問の趣旨はその通りだと思います。サンサンファームについては農産物の物販施設、それから、とうもんの里については田園空間博物館ということで、それぞれの成り立ちが違っているというのは重々承知しております。そういう中でこれもまた、地域の皆様とのご相談・ご協議になるかと思っておりますが、そういったものを複合化して機能を維持しつつ、新しい良いものができるかということをご相談させていただければと思っております。 もちろん、掛川市の中でも行政部局と調整が済んだ上で、ご提案申し上げているところでありますので、よろしく願いいたします。
85	大須賀中学校区	23	再配置の方向性	計画の見直し			収入減、支出増の前提はなにか。あまく見積もってはいないか。見直しの追加は？	財源の見直しにつきましては、総合計画の目標人口等を踏まえ財政計画を策定しております。将来の収支と見積もっておりますけれども、現実な見通しと異なってくることもあろうかと思っております。本計画についても10年ごとに計画を見直していきたいと考えております。 なお、収支の見直しにつきましては、市のホームページの方をまたご覧いただければと思っております。公共施設等総合管理計画の33頁にその財源不足の内容説明がございますので、よろしく願いいたします。
86	大須賀中学校区	24	再配置の方向性	財源不足			将来財源不足は掛川市のみでしょうか。日本全体のことであれば全体像についても説明していただきたい。	当然、将来、財源が不足するのではないかというのは、掛川市だけではないと思っております。これは全国的な傾向であると思っております。少子高齢化が進展をしていきますと支える人口が減ってまいりますので、それについては財源不足が予想されるところであります。 実は、先程も話がありましたけれども、公共施設等総合管理計画を掛川市は平成28年3月に策定をしました。これは、掛川市が作っている冊子ですけれども国が全国的な財源不足、あるいは施設の老朽化を懸念して、全国の自治体につくるように指示を出した計画でもあります。そんなことから今のご質問については、全国の自治体も同じ課題を抱えていることをご理解をいただきたいと思っております。

87	大須賀中学校区	25	再配置の方向性	縮充			再配置によるマイナスはどのように考えているのか。プラスしか出していない。	<p>先程申し上げたように、課題につきましては、これから色々出てくるかと思えます。一つは避難所の関係、防災上の安全・安心の確保という点。それから、今回の再配置方針については施設を複合化・集約化していくことが前提になっておりますので、住民の方によっては施設が遠くなる場合もあると思えます。そういった時の足の確保をどうしていくのかというのは、課題として発生してくると思えます。</p> <p>先程、教育長からスクールバスの話が出ましたけれども、やはり市の方でも仮に朝スクールバスに子供さんが乗って、お昼の時間帯にも空いているのであれば、それを別の用途に使う方法はないだろうかということ、一般市民の方や高齢者の方が活用できるような運行や形態も今回の公共施設の再配置について検討していく必要があると思っております。</p>
88	大須賀中学校区	26	再配置の方向性	防災			各施設の防犯上の管理および地震時の対応など、どうするのでしょうか。	<p>もちろん防犯上の管理は適切に管理をして、施設を継続して利用していく場合については、安全かつ適正に管理してまいります。地震時の対応の関係でございます。もちろん学校や色んなセンターとは避難所の機能も兼ね備えております。そんなこともありますので、必要な機能については、生活の近いところに残していくのは大切なことだと思います。その中でも今こそ防災拠点をどうしていくのかについても検討させていただきたいと思えます。</p>
89	大須賀中学校区	27	再配置の方向性	跡地・空き施設			廃止の後はどうするのか。	<p>原則として建物については、解体・譲渡していきたいと現時点では考えております。不要になった跡地はどうするのかということは、現時点では売却・譲渡を図ることを基本に考えておりますが、これにつきましても地域の皆様とご相談をさせていただいて、個別に慎重に検討していきたいと考えております。</p>
90	大須賀中学校区	28	再配置の方向性	跡地・空き施設			廃止とした所の土地はどのようにするのですか。	
91	大須賀中学校区	29	説明会	説明内容			説明会の主旨は何か？実行するということか。	<p>50年間の計画を推進していくということになりますが、来年に再配置計画、本日のご説明は再配置方針という段階でございます。再配置計画を来年度策定するために皆様からご意見をいただきたいという趣旨で説明会を開催させていただいております。</p>
92	大須賀中学校区	30	検討の進め方	市民意見	合意形成		<p>広報誌10月号では「策定には、地域の説明会や市民アンケート調査などを通じて情報の共有や議論、ニーズに把握に努めます。」とありますが、特定の公共施設で市民が納得できないとするならどうするのですか。東京オリンピックのマラソン、競歩競技では、東京都の小池知事が「合意なき決定」ということを述べ、不快感をあらわにしました。市は、市民の声を聞くポーズを示しながら、実は「計画ありき」ではありませんか。何事においても地域や市民との合意が前提ではありませんか。十分な時間をとり、合意に向けた努力が市には求められています。いかがでしょうか。</p>	<p>説明会後は実行するかというご意見ですけれども、実際に施設の再整備を進めていくことになれば、個別の説明会はおそらく何回も何回も重ねませんと皆様のご理解はいただけないだろうと思っております。この50年間の長期計画ではございますけれども、こういった説明については、丁寧にしていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。</p>

93	大須賀中学校区	31	検討の進め方	市民意見	合意形成		<p>市は今後50年間の再配置方針を中学校区ごとに9カ所各会場1時間あまりで説明し質問項目も3問のみ。市はその場で回答するということは、あまりに一方通行ではないのか。市民に寄り添う姿勢が欠けているのではないか。</p>	<p>説明会の他にも市のホームページ、あるいは電話、FAXメール等で、多くの皆様のご意見をいただければと思っております。また現在、市のホームページ上にWebアンケートを掲載しております。ぜひご回答いただければと思っております。</p> <p>それぞれの各施設の事業化の段階につきましては、実際の再配置を事業化する際に、個別案件ごとに地域や利用者の皆様等と協議しながら、具体的な検討を進めてまいりたいと考えております。皆様のご意見については、丁寧に対応させていただきたいと思っております。どうぞよろしく申し上げます。</p>
94	大須賀中学校区	32	検討の進め方	市民意見	合意形成		<p>12月17日(火)の桜が丘中学校区が最後の説明会となるわけです。10月広報には「市民ニーズ把握や情報共有のための地区説明会や」と見出しがあり、「計画を推進、具体化するための策定には地域の説明会や市民アンケート調査などを通じてニーズの把握に努めます。」とあります。説明会は今回1回限りで終わりということでしょうか。</p>	<p>今回9カ所説明会を開催し来月までに一巡いたします。今後の説明会は、今の時点では未定でございますので、必要な都度開催をしていくということになると思います。他の会場でも申し上げているのですが、こういう話ですので情報提供やご説明については丁寧に進めていきたいと考えております。</p> <p>また、地区説明会の他にも色々な形でご意見をお寄せいただきたいと思いますと思っております。一例申し上げますと、今日次第の一番下右側のところにQRコードが記載しております。これをスマホで読んでいただきますと市のホームページに飛びます。その中に色々なアンケートやご意見をお寄せいただけるような形になっております。ぜひインターネット環境にある方につきましては、そういう形で市の方に色々なご意見をいただけるとありがたいと思っております。</p>
95	大須賀中学校区	33	検討の進め方	市民意見	合意形成	○	<p>自治体の再配置事例の紹介を見て、中学校(新校舎)のイメージ(内部)から学校専用、学校、公民館など、地域の活性化のために必要なことだと思っております。地域の人が集う施設があれば活性化につながると思います。これからどんな施設が計画されているか教えていただきたいと思っております。また地域の声を吸い上げていただきたいと思っております。</p>	<p>先程のご説明の中で「縮充」という言葉を使わせていただいておりますが、面積的には少し小さくなりますけれども、機能としては充実していきたいという考え方でありまして、少子高齢化の進展や社会経済情勢の変化によって、既存の公共施設では対応しきれていない、新しい市民ニーズが今後増加することも予想されます。従いまして、今回の再配置につきましては、それらの新しい市民ニーズに対応した、新たな公共施設、新たな公共サービス構築をする機会ということで考えているところでございます。</p>